

海外を含め4万1000人が挑戦 平成25年度第2回検定を実施



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」（略称・語検）の平成25年度第2回（通算第14回）検定が、11月8日（金）と9日（土）に行われました。国内は47都道府県99カ所の一般会場と831カ所の準会場、海外はイギリス（ロンドン）、韓国（ソウル他）、アメリカ（ニューポート）、ドイツ（フランクフルト）の4カ国（準会場も合わせ）で実施され、合わせて4万1266人が受検しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など6つの領域について、日本語を正しく使う能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、12月上旬に語検ホームページで合否速報が発表され、年内には合否通知が発送されます。

今回の受検者数は、1級（社会人レベル）741人、2級（大学生～社会人レベル）4050人、3級（高校生～社会人レベル）1万4793人、4級（中学生・高校生レベル）1万714人、5級（小学校高学年・中学生レベル）6895人、6級（小学校中・高学年レベル）2895人、7級（小学校低・中学年レベル）1178人で、1級受検者が前回より8割増えたのが特徴です。最年長者は97歳の主婦、最年少者は10歳の小学4年の男の子でした。



◆ 午前、午後に分かれ計1000人が受検＝東京23区会場

東京23区の一般会場となった渋谷区代々木の山野美容専門学校では、社会人を中心に約1000人が1級から7級に挑戦しました。

初冬の肌寒い天候とあってコートや羽織った受検生も少なくありませんでしたが、早い人は検定開始の1時間前に会場に到着し、問題集に目を通したり、新聞を読んだりしていました。開始30分前ごろからは受検者が続々と会場に入る姿がみられ、緊張感が漂う中で15分前には、監督者の注意事項の説明に耳を傾けていました。若い女性や中高年の夫婦らが目立ち、級ごとに分けられた教室に30人ほどずつ入り、午前と午後の2回に分かれて受検しました。

◆ 仕事に、就職に生かしたい

昨年秋の検定で準2級の認定を受けた杉並区の50歳代の男性は「2級へのチャレンジは2回目。何とか今回は認定を受けたい」と、笑顔を見せながらも決意を漲らせていました。会社の資格取得奨励制度を使って2級に挑戦するという板橋区の20歳代の女性は「（携わっているサービス業の）仕事で生かせるのでぜひ認定を得たい」と初めての語検にやや緊張気味でした。

「（社会人の友達から）就職に有利だと聞いて受検することにしました」と話す杉並区の大学3年の男性は、厳しい就職競争線を切り抜けるための手立てとして2級を受検。「2級の認定がとれたら1級にも挑戦してみたい」と眼を輝かせていました。

◆ 家族とのコミュニケーションに役立てたい

小学生や主婦が目立つ7級の教室には、外国人の姿もありました。英国生まれで日本在住10年の40歳代の男性は「家族とのコミュニケーションをもっととるために（語検が）役立つと思った」というのが受検の動機。小中学生の娘や息子と話すときには、英語混じりのゆっくりとした日本語を（子どもたちも）使うので、自分も理解できるが、「子供同士の（日本語の）会話の中身はあまり分からない。敬語もしっかり使えるようになりたい」と身振り手振りを交えて話してくれました。

（時事通信社編集委員 升谷 昇）